分野	専門分野Ⅰ －基礎看護学－	対象学年	2
		時期	前期～後期
授業科目	看護学概論Ⅱ （看護研究・安全管理） Introduction to Fundamental Nursing Ⅱ	単位	1
		時間	30
		方法	講義　・演習
担当教員	始業後、担当教員一覧および授業ガイダンスにて確認		
科目責任者	担当者複数の場合は、担当教員一覧にて確認		
授業概要	看護の現象から課題を見出し、研究として取り組むことで課題に取り組む姿勢を養う。看護研究を通して科学的思考により看護実践の根拠が明確になることを学び、看護をより良いケアにつなげるための看護研究の意義を学ぶ。 また、対象の発達段階や健康障害によって、医療環境には多くの危険が潜んでいる。その環境は、医療従事者にとっての危険も潜んでいる。安全管理の視点から医療事故について学び、看護師は対象や自分自身の安全や安楽を守る重要な役割をもっていることを学ぶ。		
目標	１．看護研究の意義を理解する。 ２．疑問を解決する方法を身につける。 ３．研究の一連の流れに沿って看護研究を行う。 ４．安全管理の意義と援助方法を理解する。 ５．対象の尊厳に配慮する態度を養う。 ６．わからないことを自ら考え、調べる姿勢を養う。 ７．主体的に取り組む姿勢を養う。		
評価方法	終講試験　80 点 ・看護における研究 50 点　　・安全管理技術 30 点 ・看護研究グループ提出物　20 点		
使用テキスト	看護研究こころえ帳　医歯薬出版 看護のためのわかりやすいケーススタディのすすめ方　照林社 系統看護学講座　別巻　看護情報学　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学　看護学概論（医学書院） 系統看護学講座　統合分野　　医療安全（医学書院）		
参考図書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　　医学書院		
メッセージ	興味、関心をもったことを調べる姿勢がとても大切です。方法にとらわれず、さまざまな角度から考えてみましょう。安全管理では、医療現場の様々な危険に関する知識やルールの背景にある根拠を学びます。対象だけでなく、自分自身を守るためにも、必要な知識や考え方をおさえましょう。		

回数	単元・主題	授業のねらい	授業内容	方法	備考
1	Ⅰ看護における研究 1.看護研究の意義	看護研究の意義を理解する	研究とは 看護研究とは	講義	
2	2.看護研究における倫理	人を対象とする場合の倫理的配慮について理解する	人を対象とする場合の倫理的配慮 看護に対するインフォームド・コンセント	講義	
3	3.研究デザイン	看護研究の種類について理解する	看護研究の種類 1）事例研究　2）実験研究　3）調査研究	講義	
4	Ⅱ研究の実際 1.研究課題を明らかにする	研究計画書の意義と研究計画書までのプロセスについて理解する	研究計画書の意義 研究計画書までのプロセス	演習	
5	2.文献検索	研究論文の読み方を理解する	研究論文の読み方 文献を読む	演習	

6	3.文献の整理	研究計画書を作成する	研究計画書の作成 グループで作成	演習	
7	4.テーマの絞り込み	文献検索の方法を理解する	文献検索 グループで文献検索	演習	
8	5. 論文の作成①	研究論文を作成する	研究論文の作成 グループで論文作成	演習	
9	6. 論文の作成②	研究論文を作成する	研究論文の作成 グループで論文作成	演習	
10	7.文献研究の発表	研究結果を発表する	研究結果の発表 グループ毎に発表	演習	
11	III安全管理技術 1.医療における安全	安全管理の意義と援助方法を理解する	医療における安全 抑制	講義	
12	2.診療の補助業務上の安全管理	診療の補助業務上の安全管理を理解する	診療の補助業務上の安全管理 注射、輸血、与薬、経管栄養等	講義	
13	3.療養生活の安全管理	療養生活における安全管理を理解する	療養生活の安全 転倒、転落、誤嚥、異食、入浴中の事故、患者の取り違え	講義	
14	4.医療事故防止	医療事故防止について理解する	医療事故	講義	
15			終講試験		

分野	専門分野Ⅰ －基礎看護学－	対象学年	2
		時期	前期～後期
授業科目	共通基本技術Ⅲ （看護過程） Common Basic Nursing　Skills Ⅲ	単位	1
		時間	30
		方法	講義・演習
担当教員	始業後、担当教員一覧および授業ガイダンスにて確認		
科目責任者	担当者複数の場合は、担当教員一覧にて確認		
授業概要	看護過程は、情報を収集してその情報を分析し、その分析から、対象の健康上の問題を明らかにする。その問題を解決するために援助計画をたて、実践し評価するという経過をたどる。このことにより効果的で質の高い援助につながる。看護過程の展開に必要な思考として、クリティカルシンキングを用いることが有効である。この思考は、繰り返し使うことにより身につけていく。そのために、紙上事例を用いて、看護過程の一連の過程を体験する。そのことにより、看護過程の基盤となる考え方とその実際を学ぶ。		
目標	１．クリティカルシンキングの思考を養う。 ２．看護過程の一連のプロセスを理解する。 ３．事例を通して、看護過程を展開する。 ４．対象の尊厳に配慮する態度を養う。 ５．わからないことを自ら考え、調べる姿勢を養う。 ６．主体的に取り組む姿勢を養う。		
評価方法	終講試験　70 点 授業で取り組む課題評価　30 点 ・アセスメント 10 点　・関連図、統合アセスメント 10 点　・看護診断、計画 10 点		
使用テキスト	系統学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学 NANDA-I 看護診断　定義と分類　北米看護診断協会 ＮＥＷ実践　看護診断を導く　情報収集・アセスメント[第５版]　学研		
参考図書			
メッセージ	【看護過程の基本となる考え方】 看護の核となる思考の学習です。看護とは何か考えながら学びましょう。 【看護過程の構成要素】 看護の核となる思考の学習です。看護過程の展開が実際にできるよう取り組みましょう。		

回数	単元・主題	授業のねらい	授業内容	方法	備考
1	Ⅰ看護過程の基となる考え方 看護過程の意義	看護過程の意義について理解する	１年次既習の看護過程を振り返りながら、看護過程を学ぶ意義について理解していく。	講義	
2	Ⅱ看護過程の構成要素 1.アセスメント①	アセスメント（情報の分析）について理解する	看護過程の構成要素に沿って、アセスメントから学習する。 NANDA-I を活用したアセスメントの視点と照らし合わせて分析をしていく。	講義	
3	2.アセスメント②	アセスメント（情報の分析）について理解する	NANDA-I の各領域の視点と照らし合わせて分析をする。	講義	
4	3.アセスメント③	アセスメント（情報の分析）について理解する	NANDA-I の各領域の視点と照らし合わせて分析する。 関連図で情報をつなげ関連性を考える。	講義	
5	4.アセスメント④	アセスメント（全体像の整理）について理解できる	対象の全体像を表す関連図から統合アセスメントとして全体像を整理する。	講義	

6	5.看護診断①	看護診断について理解する	対象の全体像から看護問題を明確にしていく。 看護問題の優先順位の考え方や看護問題の表現方法について学習する。	講義	
7	6.看護診断②	看護診断について理解する	NANDA-Ⅰの診断概念を学習し、対象の看護問題を看護診断で表現する。	講義	
8	7.看護計画	看護計画について理解する	対象にとって期待される成果や看護介入を考える。看護計画としてまとめていく。	講義	
9	8.実施、評価、看護記録	実施・評価・看護記録について理解する	実施上の留意事項や、記録の実際、評価の方法について学習する。	講義	
10	Ⅲ看護過程の実際 1.アセスメント①	演習を通して、アセスメントができる	紙上事例をもとに、アセスメントする。	演習	
11	2.アセスメント②	演習を通して、アセスメントができる	アセスメントの過程において、疑問を解決しながらすすめていく。	演習	
12	3.アセスメント③	演習を通して、アセスメントができる	アセスメントの過程において、疑問を解決しながらすすめていく。	演習	
13	4.看護診断	演習を通して、統合アセスメント、看護診断を実施できる	統合アセスメント、看護診断 得られた情報を統合し、看護診断を考える。	演習	
14	5.看護計画	演習を通して、看護計画を実施できる	看護計画 対象にあわせた看護計画を立案する。	演習	
15			終講試験		

分野	専門分野Ⅰ －基礎看護学－	対象学年	2
		時期	前期～後期
授業科目	診断・治療に伴う援助技術Ⅲ (与薬・救命救急) Care skills for Diagnosis and Treatment Ⅲ	単位	1
		時間	30
		方法	講義・演習
担当教員	始業後、担当教員一覧および授業ガイダンスにて確認		
科目責任者	担当者複数の場合は、担当教員一覧にて確認		
授業概要	与薬の技術の基本的知識を学び、与薬の技術・採血技術を習得する。診療の補助技術のなかでも薬物療法に伴う与薬の技術は、対象の生命に直接関与する。特に、薬物の効果や副作用の観察、発見、対処などの確実な知識と、薬物の効果を最大に発揮できるような確実な技術が求められる。ゆえに、ある程度の基礎技術を習得した 2 年次に行う。この技術は、医療事故につながりやすい技術であり、よりいっそう安全で確実な技術が求められる。また、災害や緊急な対処が求められる状況に応じて適切な判断と行動がとれるよう救命救急処置技術を学ぶ。		
目標	１．与薬の技術の意義と援助方法を理解する。 ２．基礎的与薬の技術、採血技術を身につける。 ３．救命救急処置技術の意義と援助方法を理解する。 ４．救命救急処置技術を身につける。 ５．対象の尊厳に配慮する態度を養う。 ６．わからないことを自ら考え、調べる姿勢を養う。 ７．主体的に取り組む姿勢を養う。		
評価方法	終講試験　100 点 ・与薬の技術 79 点　　・救命救急処置技術 21 点		
使用テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学【3】　医学書院		
参考図書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　　医学書院		
メッセージ	【与薬】 この授業では、患者への侵襲の高い与薬の技術を学びます。 安全に実施できるよう真剣に取り組みましょう。 【救命救急処置技術】 病院の内外を問わず、日常生活の中でも救命救急処置技術が必要となる状況に出会うかもしれません。看護学生として、対象の命を救うことのできる知識と技術を身につけましょう。		

回数	単元・主題	授業のねらい	授業内容	方法	備考
1	Ⅰ与薬の技術	与薬の基礎知識について理解する	与薬とは 与薬の基礎知識 1)剤形と吸収経路 2)看護師の役割 3)薬の管理	講義	
2	2.経口、外用、直腸内の与薬方法	経口与薬、吸入、点眼・点鼻、経皮的与薬　直腸内与薬について理解する	経口与薬 吸入、点眼・点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬 1)目的　2)適応　3)禁忌　4)援助の実際	講義	
3	3.経口与薬、直腸内与薬の実際	経口与薬・直腸内与薬を実施できる	経口与薬の実際 直腸内与薬の実際 1)剤形の種類に応じた経口与薬の体験 2)対象の羞恥心に配慮した直内内与薬の体験 3)誤薬防止のための確認	演習	

4	4.注射の基本知識（静脈注射、点滴静脈内注射の方法、中心静脈栄養の管理）	静脈内注射や点滴静脈内注射の目的・方法・注意点について理解する	注射の基本知識 1)注射の適応　2)注射方法と種類 静脈内注射の目的・方法・注意点 点滴静脈内注射の目的・方法・注意点	講義	
5	5.皮内・皮下注射の方法、筋肉内注射の方法、静脈血採血	目的・吸収機序・実施部位・針の刺入角度と深さを理解した注射の実施法について理解する	目的・吸収機序・実施部位・針の刺入角度と深さを理解した注射の実施法 皮内注射、皮下注射の目的・方法・注意点 筋肉注射の目的・方法・注意点 静脈血採血の目的・方法・注意点	講義	
6	6.皮下注射・皮内注射・筋肉注射の実際	皮内注射・皮下注射・筋肉注射を実施することができる	皮内注射の実際 皮下注射の実際 筋肉注射の実際 1)安全で正確に実施するための体位と注射部位の確認 2)適切な部位に、注射針の刺入角度・深さを守った注射の実施 3)薬液を注入する前の血液の逆流や痛みや痺れの確認	演習	
7	7.静脈内注射・静脈血採血の実際	静脈内注射・静脈血採血を実施することができる	静脈内注射の実際 静脈血採血の実際 1)安全で正確に実施するための体位と注射部位の確認 2)適切な部位に、注射針の刺入角度・深さを守った注射・採血の実施 3)薬液を注入する前の血液の逆流や痛みや痺れの確認と採血時の痺れの確認 4)注射の目的、薬剤の効果を理解した対象への説明及び採血の目的の説明	演習	
8	8.点滴静脈内注射・輸液管理の実際	点滴静脈内注射･輸液速度の調整を実施できる	点滴静脈内注射（静脈留置針）の実際 輸液速度の調整の方法 1)点滴静脈内注射の実施過程がわかる ①必要物品お適切な配置 ②留置針の操作 ③留置針の固定法 ④留置針の抜去方法	演習	
9	9.輸液ポンプ、シリンジポンプ の操作	輸液ポンプ、シリンジポンプの操作方法について理解する	輸液ﾎﾟﾝﾌﾟ、シリンジポンプの安全な操作 1)適応　２)動作原理　3)正しい使い方 4)正しい管理	講義	
10	10.輸液ポンプ、シリンジポンプの操作の実際	輸液ポンプ、シリンジポンプの操作を実施できる	輸液ポンプ、シリンジポンプの操作方法 1)点滴台への取り付け 2)初動操作の確認 3)輸液ポンプの設定 4)輸液ポンプ、シリンジポンプ使用中の留意点 5)輸液ポンプ･シリンジ ポンプ操作中の留意点	演習	

11	11.中心静脈栄養や輸血の管理	中心静脈栄養法や輸血の管理方法について理解する	中心静脈栄養の管理 1)適応と目的 2)中心静脈ｶﾃｰﾃﾙの管理と観察 輸血の管理方法 1)血液製剤の種類　2)副作用 3)投与時の留意点	講義	
12	Ⅱ救命救急処置技術 1.心肺蘇生法	救急蘇生法について理解する	救命救急処置の必要性、 救急蘇生法とは（ＢＬＳ，ＡＣＬＳ） 一時救命処置とは	講義	
13	2.一時救命処置の実際	状況に応じて一時救命処置（ＢＬＳ）技術が実施できる。	演習：状況に応じた一時救命処置（ＢＬＳ）の実際	演習	
14	3.院内急変時の対応	二次救命処置について理解する	二次救命処置とは 救急蘇生薬 心肺蘇生の断念と中止 止血法	講義	
15			終講試験		